

2006年度 早稲田大学国際教養学部  
国語  
(問題)

注意事項

- 1 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
- 2 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべてマーク解答用紙の記入欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
- 4 氏名をマーク解答用紙の所定欄（1か所）に記入すること。
- 5 マーク欄ははつきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでいいねいに、消し残しがないようよく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	● 悪い

- 6 試験終了の指示がでたら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わず解答を続けた場合は、答案の全てを無効とするので注意すること。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

(一) 二年前、逃亡した使用人の巻き添えで捕えられた船乗り業桂屋太郎兵衛の処刑が行われる二日前、太郎兵衛の長女いち(十六歳)は、自分ら子供たちを身代わりにした父の助命嘆願を思いつく。助命嘆願書を一晩かけて書き上げ、翌朝、母には内緒で、妹のまつ(十四歳)、とく(八歳)、跡取り養子の長太郎(十二歳)、弟初五郎(六歳)とともに西町奉行に願ひ出る。願ひは却下され、引き下げられるが、願書の文面のしつかりしていることに不審をおぼえた西町奉行の佐佐は、翌日、拷問の道具を揃え、改めて子供五名を取り調べることにする。その朝、いちの取り調べからはじまる次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

長女いちが調べられた。当年十六歳にしては、少し穉く見える、瘦肉の小娘である。しかしこれは些の臆する気色もなしに、一部始終の陳述をした。(……) 凡そ前日来経歴した事を問われる儘に、はつきり答えた。

「それではまつの外には誰にも相談はいたさぬのじゃな」と、取調役が問うた。

「誰にも申しません。長太郎にも精しい事は申しません。お父っさんを助けて戴く様に、願ひしに往くと申しただけでございます。お役所から帰りまして、年寄衆のお目に掛かりました時、わたくし共四人の命を差し上げて、父をお助け下さるように願うのだと申しましたら、長太郎が、それでは自分も命が差し上げたいと申して、とうとうわたくしに自分だけのお願書を書かせて、持ってまいりました。」

いちがこう申し立てると、長太郎が懐ろから書付けを出した。

取調役の指図で、同心が一人長太郎の手から書付けを受け取って、縁側に出した。

取調役はそれを披いて、いちの願書と引き比べた。いちの願書は、町年寄の手から、取調べの始まる前に、出させてあったのである。

長太郎の願書には、自分も姉や弟妹と一緒に、父の身代わりになって死にたいと、前の願書と同じ手跡で書いてあった。

取調役は「まつ」と呼びかけた。しかしまつは呼ばれたのに気が付かなかった。いちが「お呼びになったのだよ」と言った時、まつは始めておそるおそる項垂れていた頭を挙げて、縁側の上の役人を見た。

「a」と、取調役が問うた。

まつは「はい」と言つて頷いた。

次に取調役は「長太郎」と呼び掛けた。

長太郎はすぐに「はい」と言った。

「b」

「みんな死にますのに、わたしが一人生きていたくはありません」と、長太郎ははつきり答えた。

「とく」と取調役が呼んだ。とくは姉や兄が順序に呼ばれたので、今度は自分が呼ばれたのだと気が付いた。そして只目を睜つて役人の顔を仰ぎ見た。

「c」

とくは黙つて顔を見ているうちに、唇に血色が亡くなって、目に涙が一ぱい溜まつてきた。

「初五郎」と取調役が呼んだ。

ようよう六歳になる末子の初五郎は、これも黙つて役人の顔を見たが、「d」と問われて、活発にかぶりを振った。書院の人々は覚え、それを見て微笑んだ。

この時佐佐が書院の敷居際まで進み出て、「いち」と呼んだ。

「はい。」

「お前の申立てには嘘はあるまいな。もし少しでも申した事に間違いがあつて、人に教えられたり、相談をしたりしたのなら、今すぐに申せ。隠して申さぬと、そこに並べてある道具で、誠の事を申すまで責めさせるぞ。」佐佐は責道具のある方角を指さした。

いち是指された方角を一目見て、少しもたゆたわずに、「いえ、申した事に間違いはございません」と言い放った。その目は冷やかで、その言葉は徐かであった。

「そんなら今一つお前に聞くが、身代わりをお聞き届けになると、お前達はすぐに殺されるぞよ。父の顔を見ることは出来ぬが、それでも好いか。」

「よろしうございます」と、同じような、冷やかな調子で答えたが、少し間を置いて、何か心に浮かんだらしく、<sup>1</sup>「お上の事には間違いはございませうまいから」と言い足した。

佐佐の顔には、不意打ちに逢ったような、驚愕の色が見えたが、それはすぐに消えて、険しくなった目が、いちの面に注がれた。

とでも言おうか。しかし佐佐は何も言わなかった。  
次いで佐佐は何やら取調役にささやいたが、間もなく取調役が町年寄に、「御用が済んだから、引き取れ」と言い渡した。

白洲を下がる子供等を見送って、佐佐は太田と稲垣とに向いて、「生先の恐ろしいものでござりますな」と言った。心の中には、哀れな孝行娘の影も残らず、人に教唆せられた、おろかな子供の影も残らず、只氷のように冷やかに、刃のように鋭い、いちの最後の言葉の最後の一句が反響しているのである。元文頃の徳川家の役人は、固より「マルチリウム」という洋語も知らず、又当時の辞書には献身という訳語もなかったので、人間の精神に、老若男女の別なく、罪人太郎兵衛の娘に現れたような作用があることを、知らなかったのは無理もない。しかし献身の中に潜む<sup>2</sup>、  
**f** の鋒は、いちと語を交えた佐佐のみではなく、書院にいた役人一同の胸をも刺した。

問一 空欄 **a** **d** には、それぞれ次の取調役の問いかけのうちの一つが入る。もつとも適当なものをそれぞれ次のア～エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア お前も死んでも好いのか
- イ お前は姉と一緒に死にたいのだな
- ウ お前はどうかじゃ。死ぬるのか
- エ お前は書付けに書いてある通りに、兄弟一緒に死にたいのじゃな

問二 傍線部 1 「何か心に浮かんだ」とあるが、その内容としてもつとも適当なものを次のア～オの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 近いうちに特赦が行われるという噂を思い出し、それを守ってもらいたいという気持ちが頭をもたげた。
- イ そもそも父への罪科が使用人の罪に巻き添えになったもので、死罪は不当だという気持ちが頭をよぎった。
- ウ 死んだ後のことを、お上に確認をとっておいたほうが安心だという気持ちが頭をもたげた。
- エ ことによれば自分たちの死後、お上が約束を守らないのではないかと不安が頭をよぎった。
- オ もうすでに父は殺害されているのでは、という不安が頭をよぎった。

問三 空欄 **e** に入るもつとも適当な語句を次のア～オの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 驚愕にみちた好奇の目
- イ 憎悪を帯びた驚異の目
- ウ 慈愛を漂わせた畏敬の目
- エ 驚嘆に染まった懐疑の目
- オ 疑念を帯びた不審の目

問四 傍線部 2 「罪人太郎兵衛の娘に現れたような作用」とあるが、その内容を示す語としてもつとも適当なものを次のア～オの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 博愛
- イ 人権意識
- ウ 平等
- エ 孝行
- オ 自己犠牲

問五 空欄 **f** に入るもつとも適当な語を次のア～オの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 反抗
- イ 自持
- ウ 悲哀
- エ 逆説
- オ 革命

(二) 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

欧米との比較で日本社会の特徴が論じられる際に、よく言及されるテーマの一つに「公／私」の区別という問題がある。英語の「public」と「private」を日本語に移し変える際にそれぞれ「公」と「私」という漢字を当てるケースが多いが、無論全面的に対応しているわけではない。最初に「public」＝「公」関係について考えてみよう。「public law」を「公法」、「public policy」を「公共政策」、「public service」を「公<sup>1</sup>エキ事業」と訳す場合のように、「public」の指し示す具体的内容が国家・政府機関に関わっている時は、比較的スムーズに「公」と対応している。しかし「public opinion（世論）」のように、国家・社会を構成する市民一人一人に直接関わる表現の場合、日本語の「公」のイメージとのズレが出てくる。不特定多数を対象にする「public relations（広報・宣伝）」になると、「公」からかなり隔たる。「private」についても、「private negotiations（秘密交渉）」といった言い回しの場合、日本語の「私的」、いわゆる「プライベート」とは異なった意味になる。

田原嗣郎は日本語の「おおやけ」がもともと、古代の農業共同体の基本単位である「ヤケ」の大きいものを指しており、各地の共同体の首長（豪族）に属していたことを指摘する。古代の農村社会は、天皇家を頂点とする大小の「おおやけ」が重なり合っていたわけであるから、ある一つの「（おお）やけ」に対してより上位に立つ「おおやけ」があり、その「おおやけ」の上に更に大きな「おおやけ」が……という形の入れ子構造が形成されていたと考えられる。田原はこうした古代の「おおやけ／やけ」関係を基礎にして、日本的な「公／私」関係の重層構造が成立していると推測する。

社会が共同体の積層でできているところでは、**a**の共同体は**b**のそれを包<sup>2</sup>セツしているのであるから、必ずより大きい勢力範囲をもつ。従って下級の「公」は、上級の「公」の前では「私」になってしまふ。そこで**c**関係は**d**関係に重ねられる。これが習慣化すれば**e**は単に**f**関係を表現するものとなることがある。

田原の議論によれば、「公」のもつ公共性が「首長性の影にかくれがち」になる一方、「私」は積極的意味を与えず、共同体内の「公」ではない否定的なものとして扱われる傾向が生じたのである。こうした「公／私」の階層構造の中では、共同体全体の規<sup>3</sup>ハ<sup>3</sup>ン<sup>3</sup>に関わる種々の問題において判断する審級<sup>注1</sup>は常により「上」にあるわけだから、道德的責任主体としての「個」の存在する余地はほとんど残されていない。

このように階層的な意味合いが極めて強い日本の「公」に対して、英語の「public」には、先に挙げた例からも分かるように、**I**といったニュアンスがある。「in a public place」は「誰からも見えるところで、衆人<sup>4</sup>カン<sup>4</sup>視<sup>4</sup>の中で」という意味である。逆に言えば、特権化された「おおやけ」ではなく、「the public（一般の人々、公衆）」が集まり、共同体全体に関わる「公的な事柄 public affairs」についての関心を共有する場が「公共の場」なのである。第二次大戦中にドイツから米国に亡命したユダヤ系の政治哲学者ハンナ・アーレント（1906-75）は、そうした意味での「公共性」が西欧的な政治社会を支えてきた基礎であったと考える。全ての構成員に対して開かれた「公共」の場が確保されていることが、政治（ポリス）の存立条件なのである。『全体主義の起源』（1951）における彼女の議論によれば、近代的な民主制度の下で「個」の存在を消滅させる全体主義が生まれてきた根本的な原因は、市民社会の中に拡大した「公的生活」に対する無関心、無気力であった。「公的事柄」に対する関心をなくした人々は、「個性」を持たない無名の群衆と化し、国家の官僚的支配機構の中に自ら進んで統合されてしまふ。彼女に言わせれば、「公的事柄」に対するアパシー<sup>注2</sup>は西洋文明の根底にあった「人間性」の終焉<sup>注3</sup>を意味する。

注1 審級……もともと法律用語で、訴訟事件を異なる階級の裁判所に反覆審判させる場合の裁判所間の審判の順序・上下関係を示す。

注2 アパシー……apathy（英語）。無感動であること、無関心であること。

問六 傍線部 1、4 にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語を、それぞれ次のア、イ、エの中から一つずつ選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | ア | 溶エキ | イ | 賀エキ | ウ | 利エキ | エ | エキ舎 |
| 2 | ア | セツ実 | イ | 密セツ | ウ | セツ立 | エ | セツ理 |
| 3 | ア | 模ハン | イ | 諸ハン | ウ | ハン明 | エ | ハン茂 |
| 4 | ア | カン督 | イ | カン過 | ウ | カン境 | エ | 期カン |

問七 空欄 

a
---

f
---

 に入るもつとも適当な語句を、それぞれ次のア、イ、エの中から一つずつ選び、その記号の記入欄にマークせよ。記号は何度使用してもよい。

- ア 上級      イ 下級      ウ 上下      エ 公私

問八 傍線部 ア「公」のもつ公共性が「首長性の影にかくれがち」になる」の内容を説明する文として、もつとも適当なものを次のア、イ、エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 公の意味合いが、公が前面に出てくることによって低められる。  
イ 公のもつ意味合いとして、共同体の長という要素がより肥大化する。  
ウ 公のもつ公共性が、共同体の長によって決定されるようになる。  
エ 古代の農業共同体の長が、公の意味合いとして前面にでてくるようになる。

問九 日本における特殊な 公 に対する 私 のあり方の説明として、本文の内容と合致しないものを次のア、イ、エの中から一つ選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 共同体内の地位に関しては、それほど価値が認められていない存在  
イ 共同体の基準に関わる判断に関しては、責任をとらなくていい存在  
ウ 共同体の成員相互の行為に関しては、善悪を判定する権利をもたない存在  
エ 共同体内の公的な生活に関しては、進んで関与する積極性をもつ存在

問十 空欄 

I
---

 に入るもつとも適当なものを次のア、イ、エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 共同体の成員全員に対して公開されている  
イ 国家・政府機関によって公開されている  
ウ 共同体の成員全員に対して積極的な参加を促す  
エ 不特定多数の人々に対して積極的な参加を促す

問十一 傍線部 イ「人間性」の説明としてもつとも適当なものを次のア、イ、エの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 国家の支配機構に積極的に反抗すること  
イ 公的な事柄に関して積極的に情報の公開を求めること  
ウ 国家の支配機構に積極的に組み込まれること  
エ 公的な事柄に関して積極的に関与すること

(三) 次の文は隱岐に流された後醍醐天皇の様子を記したものである。これを読んで、あとの問いに答えよ。

隱岐の小島には、月日ふるままに、いと忍びがたう思さる事のみぞ数そひける。いかばかりのおこたりにて、かかる憂目うれしめを見るらんと、前の世のみつらく思し知らるるにも、いかでその罪をも報いてんとおほして、うちたえ御精進にて、朝夕つとめ行なはせ給ふ。法の験あまらをも心みがてらと、かつは思すなるべし。身づから護摩などもたかせ給ふに、いと頼もしきこと、夢にもうつつにも多くなありける。つれづれに思さるるをりをりは、廊めく所に立ち出でさせ給ひて、遙かに浦のかたを御覽じやるに、あまの釣舟ほのかに見えて、秋の木の葉の浮かべる心地あするも、あはれに、「いづくをさしてか」と思さる。

心ざすかたを問はばや浪の上に浮きてただよふ海士のつり舟

「浦こぐ船のかちをたえ」とうち誦して、御涙のこぼるるを、なにとなくまぎらはし給へる、いふよしなく心深げなり。ねびたまひにたれど、なまめかしうおほしき御さまなれば、所につけては、ましてやんごとなきあたらしさを、身づからいとかたじけなしと思さる。

京には、十月になりて、御禊・大嘗会などのいそぎに、天の下物騒がしう、内藏寮・内匠寮・うち殿・染殿、なにくれの道々につけて、かしがましうひびきあひたるも、かたつ方は涙のもよほしなり。悠紀・主基の御屏風の歌、人々に召さる。書くべき者のなければ、かしこへ「まゐれる行房中将をや」召し返されましなど、定めたまふ。まだきに伝へう聞こしめしければ、よひの間の静かなるに、御前にことに人もなく、この朝臣ばかりさぶらひて、昔今の御物語のついでに、「宮こにいふなる事は、いかがあらんとすらん。さもあらば、いとこそうらやましからめ」と、うち仰せられて、火をつくづくとながめさせ給へる御まみの、忍ぶとすれど、いたう時雨させ給へるを見たてまつるに、中将も心づよからず、いと悲し。

「いかばかりの道ならば、かかる御有様を見置きながら、憂きふる里にはいで帰らん」と思ふも、え聞こえやらす。

注1 「浦こぐ船のかちをたえ」……「須磨のあまの浦こぐ舟の梶を絶えよるべき身を悲しかりける」という歌を踏まえてい

注2 御禊……大嘗会の前に、天皇が賀茂川で身を清める儀式。

注3 悠紀・主基の御屏風……大嘗会の折に、当代一流の絵師・歌人・能書家によって、悠紀国・主基国の名所を詠んだ歌などを記した屏風が作られる。

注4 行房中将……後醍醐天皇に供奉している能書家。

問十二 傍線部1「かつは思すなるべし」とは具体的にどのようなことを言っているか。その説明としてもつとも適当なものを次のア～オの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 自らの運命だと諦めながらも、一方でお頼りになるものを求めようとしていること
- イ 前世の罪を修行によつて償おうとしながら、同時に祈禱の効き目にも期待していること
- ウ 前世の罪を償うことはできないから、せめて現世での正しい道を求めようとしていること
- エ 現在のつらい境遇を恨んでいるが、これも前世からの因縁であると諦めようとしていること
- オ 自らの罪を償おうという気持ちを持ちながら、一方で現在のつらい境遇を恨んでしまうこと

問十三 傍線部2「問はばや」、3「あたらしさ」の意味としてもつとも適当なものを、それぞれ次のア～エの中から一つずつ選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- 2 「問はばや」
  - ア たずねるとしたら イ たずねたいのだろう ウ たずねることだろう エ たずねたいものだ
- 3 「あたらしさ」
  - ア 初めての幸運 イ 新鮮な心持ち ウ 惜しいさま エ 無念なこと

問十四 二重傍線部 a e の「る」の中に完了(存続)の助動詞はいくつあるか。次のア、イの中から一つ選び、その記号の記入欄にマークせよ。

ア 一つ      イ 二つ      ウ 三つ以上      エ なし

問十五 傍線部 4「宮こにいふなる事」とは具体的にどのようなことか。もつとも適當なものを次のア、イの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 新たな天皇の即位が決まったということ
- イ 大嘗会があると人々がうきたっていること
- ウ 御屏風の歌として中将の歌が選ばれること
- エ 近く後醍醐天皇が流罪をとかれるということ
- オ 中将が都に戻されるのではないかということ

問十六 傍線部 5「忍ぶとすれど」とあるが、何を忍ぶというのか。もつとも適當なものを次のア、イの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 涙を流すこと      イ うらやましげな顔をすること      ウ ため息をつくこと
- エ とりすがること      オ つい愚痴が出ること

問十七 で囲んだア、イ、ウの敬語のうち、一つだけ敬意の対象の異なるものがあるがそれはどれか。ア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

問十八 「いかばかりの道ならば」で始まる中将の言葉には、中将のいかなる気持ちが込められているか。その説明としてみつとも適當なものを次のア、イ、ウの中から選び、その記号の記入欄にマークせよ。

- ア 自らの才のために主君を残して帰京することには、強いためらいの念をい込んでいる。
- イ 主君を残していくことを辛く思いながら、それでも都に上って活躍しようと決意している。
- ウ こんななさけない主君のありさまを見ては、もはや都に帰るほかないと気持ちを固めている。
- エ 辛い思いのある故郷に、主君と別れて一人で帰らなければならぬことに不安を感じている。

〔以下 余白〕